

第1回 モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム構築 WG

議事概要

- ・日 時： 平成29年12月20日(水) 15:00~17:00
- ・場 所： 中央合同庁舎2号館低層棟1階共用会議室1

<システム構築について>

- 長期契約(継続契約)の顧客と短期契約(スポット契約)の顧客を分けて、それぞれがどのような情報を必要とするかを踏まえてシステム構築することが重要。
- 現時点においてはモーダルシフトに興味がない荷主向けには、誰もが使えるシステムでなければ利用しないと思われる。IDとパスワードを付与された特定ユーザー向けのシステムでは、そのようなニーズには対応できない面があることに留意が必要。
- カーナビや地図アプリ等で検索しても陸路のみで海路経由は出てこないことがほとんどであるため、海上輸送は認知すらしてもらえていないことが多い。出発地から目的地まで海路も含めた検索ができるシステムの存在が、海運モーダルシフトにとって重要。
- どの海運会社がどの航路を運航しているか、ドア to ドアでの所要時間(荷物はどこどこに何時に着くか)といった情報が重要。
- 長期、短期それぞれの運賃が明確になっている(見える化されている)と、荷主側にとって非常に使いやすい。
- 荷主側にとって有益な「ドアToドア」の運賃情報を掲載することは、複数の運送業者の存在や契約形態を踏まえると困難ではないか。他方、海運側のタリフ運賃のみを掲載する場合、情報としての価値がどこまであるのか。
- 空席情報の掲載については、長期契約の顧客にそのようなニーズはあるのか、また、日々の更新が必要となることから管理が煩雑となる点はどうか、等について慎重に検討すべきではないか。
- 予約機能については、システム構成上の必要要素が複雑であるため、今回議論されているシステムで対応することに関し慎重に検討すべきではないか。

○

<実験用システムについて>

- モーダルシフトはほぼ例外なく海陸一貫輸送となるため、航路だけ検索できても意味がなく、一貫輸送がわかるような情報としてはどうか。
- 陸上部分については、都道府県レベルの情報から港までの所要時間等があれば、リードタイムを把握する目安として有用な情報が提供されうるのではないか。
- 検索結果での経路毎のCO2排出量、対応積荷(リーファー、混載など)がわかればより利用しやすい。
- 運航便数(週3便、日2便、日曜休便など)も考慮して様々なルートが掲載されるとよい。
- 運航状況を毎日更新するのは工数的に負担が過度となるため、運用方法は慎重に検討するべきではないか。

以上